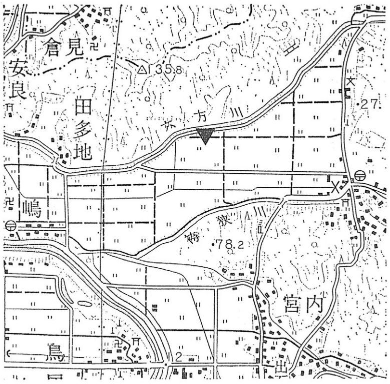
兵庫・砂入（すないり）遺跡

1　所在地　　兵庫県出石郡出石町田多地字持アミほか
2　調査期間　一九八八年（昭63）一月〜三月
3　発掘機関　兵庫県教育委員会
4　調査担当者　西口圭介・藤田　淳・甲斐昭光
5　遺跡の種類　祭祀遺跡
6　遺跡の年代　九世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、豊岡盆地の東端に位置し、南西約一kmには出石川が北流する。小野川（六方川）の河川改修工事にともない発掘調査を実施した。調査地は小野川の旧河道にあたり、しがらみを検出している。木簡(1)は九世紀代の木製祭祀遺物群と共に河道内より出土し、木簡(2)は層位からみて、(1)より新しいものと考えられる。祭祀遺物は墨書人形・馬形を含み、総数二〇〇〇点を越える。墨書土器は五点出土し、「出石二」「西」「諸」「福（内面に墨書）」「廾」と判読出来る。



（出　石）

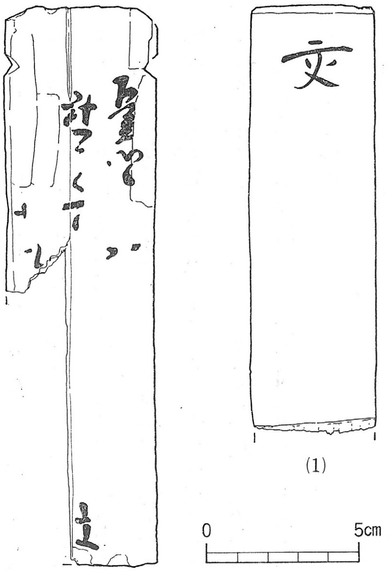
8　木簡の釈文・内容

(1)　「交　　(142)×42×6　011

(2)　「∨下里郷□□□
　　□□□□　　□
　　□□　　」　　185×50×5　032

(2)は赤外線カメラにより判読した。下里郷は「但馬国太田文」の出石郡下里郷、『和名類聚抄』では資母郷にあたり、現在の出石郡但東町中山周辺に比定される。出石郷に属する砂入遺跡より出石川沿いに約二〇km上流にあたる。

（西口圭介）



(1)　(2)